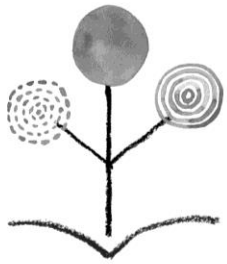
聖書を読む会通信



2014 年 6 月 1 日
No. 109

「主が民を養われる」

日本同盟基督教団・多磨教会　牧師　間島 直之

しかし、イエスは言われた。「彼らが出かけて行く必要はありません。あなたがたで、あの人たちに何か食べる物を上げなさい。」　マタイの福音書 14:16

主イエスについて来た群衆は、病を負い、教えを求め、そして空腹でした。日は暮れてしかも町は遠く、その数、男だけで五千人。そもそも、疲れて休むために寂しい場所へ送り出されたはずの弟子たちの手には負えなかったのです。「群衆を解散させてください」との提案は、弟子たちの忍耐と努力も限界だったことを伺わせます。

ところが主イエスがお命じになるのは、なおも与えることでした。ここにあるのはパンが五つと魚が二匹きりと答える弟子たちは自分たちも空腹だったはずで、人々の求めも主の命令も持て余していました。

しかしここには、群衆を深く憐れむ主イエスがおられました。祝福されて配られたパンと魚は、すべての人々の空腹を満たし、弟子たちもまた恵みに与ったのは言うまでもありません。

誠実だが疲れ果て、痛みを知っても対処できず、求めを聞いても差し出すものを持たない弟子たちは、どこか私たち自身を見るようです。精一杯仕えてきたがなお課題は多く、宣教は遅々として進まず、世の痛みにまで手が届きません。特に私たちは社会で人々を苦しめ悩ませる問題に目をつぶってきたのではないか、と心刺されます。不正義や不公正、貧しさや病、そして震災で露わになったこの国の歪んだ有様と、今もいやされない深い痛み。心を向けてはいても力及ばぬことを言い訳にして、それは教会の務めではありません、「群衆を解散させてください」と言ってきたのではないでしょうか。

主が「あなたがたで…上げなさい」と言われる時、それは文字どおりの命令です。主が命じられるのなら、私たちにはできることがあるのです。私たちが成し遂げるのではなく、すべてをなしうる主イエスが、信仰を持って主の業に参与するよう私たちを招いておられるのです。

群衆を愛し憐れみ、いやし教え満たした主イエスは、弟子たちをも満たしてくださいま

した。いま、みことばによってたましいの渇きをいやされ、主の恵みを目の当たりにすることを許された私たちは、何をもって主に仕えて行きましょうか。私たちの前には、主が愛して止まない人々が、社会が、この時代があります。主の力と恵みを知った私たちは、私たちのパンと魚をたずさえて、学びの場から主とともに歩むこの世へと遣わされていくのです。